

なかま

生き残る 確率ありや 卵抱く
播種機ゆき 鳥ら集いて 大宴

行事予定表

- 5月4日 参観日 (小3,4-1校時参観2校時懇談、
中、P中高部低-3校時参観4校時懇談)
5月11日 参観日 (小1,2、P小-1校時参観2校時懇談、
小5,6-3校時参観4校時懇談)
6月1日 運動会係リーダーと教員打合せ (16:25)
6月22日 漢字検定

第35回海外子女文芸作品コンクールに応募しましょう 校内締切6月22日を厳守してください

テーマ「海外生活を題材にしたもの」であればよい

作文：小学生2000字以内、中学生3200字以内

詩：小中とも1200字以内

俳句、短歌：一人3点以内

応募票と原稿用紙等は担任から配布されますが、いずれも海外子女教育振興財団HPからダウンロードもできます。どしどし応募してください。



自分の身を守る

4月16日に韓国で旅客船が沈没し約3百人の乗客の生存が絶望視させるとい痛ましい事故が起きました。その多くが修学旅行中の高校生だったことに世界中の関心が集まりました。伝えられた情報では、船内放送が船室に留まるように繰り返し指示したということです。そのときに指示に従うのか、自分の判断で動くのかで、運命が分かれたことは想像できます。

危機管理といってもそれぞれに条件は違うので、場合によって危機回避の在り方が異なると思われますが、それでもどうすることが最善なのかを考えておくことは重要であろうと思われます。昨年にはロックダウンの訓練を行いました。危機状況から遠ざかることを基本にしていたと思います。日ごろから想像力をたくましくして、自分の身は自分で守ることを考えておくことはとっさの事故を回避するためにも役立つと思います。日ごろから自分の身は自分で守るという気持ちをもつことが大事に備えることとなります。

本校では避難の要件としてオカシモ(押さない、かけない、しゃべらない、もどらない)を肝に銘じてもらっています。

プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.05号

平成26年 5月4日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

子育てシリーズ (9) 「こんな自分に誰がした」

A君は、両親と妹と一緒に暮らしてきました。現在は市内の有名私立中学校の3年生ですが、去年から学校に行くことができなくなっています。そしてこの頃は両親に暴力をふるうことがひどくなっているようです。今のままでは有名大学に進学するという計画も実現しそうにありません。それ以前に、親に暴力をふるうという異様な行為が行われていることに不自然さを感じます。

A君の家では、お母さんがお父さんのことを馬鹿にしてきました。自分の父親に比べて大学も出ていない収入の少ない夫を軽蔑していたのです。A君が生まれてからは、お母さんはA君に期待をかけるようになりました。そして事あるごとに「お父さんのようなつまらない人にならないよう」に、何もかもA君を最優先にしてきたのです。お父さんは黙っていました。部屋も一番いい場所をA君の部屋にし、食事もA君の好きなものを優先して作り、お父さんや妹は二の次三の次というありさまでした。それを見て育ったA君も妹もお父さんのことは大事にしませんでした。

A君はお母さんの熱心さもあり小学校時代には成績も特に優れていて念願の有名私立中学校に合格することができました。その頃には、お父さんを越えるほど大きな体に生長し、ますます父親を無視するようになっていました。あまり努力しなくても小学校ではよい成績をとっていたA君でしたが、さすがに中学校になると今までのようによい成績を取ることが難しくなっていました。そんなときに理科の実験で失敗してしまい周りの生徒から笑われるということがあり、それからは学校に行くのを嫌がるようになり、ついにはまったく部屋から出られなくなってしまいました。そのころから、お母さんだけでなくお父さんにも暴力をふるうようになり、こうなったのは育てた親が悪いのだと叫ぶのでした。お父さんは子どもが暴れるので家に入らないで車の中で寝ることもあるようです。

本当にこんなA君にしたのは誰なのでしょう。用意された環境の中で子どもの自己形成はなされていくので、その過程で人間として自然な価値観を持ち得ないような育て方をされた場合は、大変不幸なことになると言わざるを得ません。A君の場合に限らず、幼少期に培った思考の傾向性は成長しても長く変わらずに残り続けます。できるなら子には、少しでもたくましく一人で生きていけるように、さまざまな試練を与えるようにしたいものです。